

瓦じゃーなる

no.8

発行:日経工務店有限会社
2017年7月29日(土)

こんにちは、おかだです。暑い日が続いてますが、今年の夏は去年より猛暑になるみたいです。熱中症や夏バテしないよう栄養をつけて養生していただきたいです。テレビのニュースでよくみるのですが、最近の雨の降り方は局地的に固まって降るので土砂災害や川の氾濫したのをよくみます。

この間も京都の祇園のお店で一度にたくさんの雨が降って雨樋の容量が追い付かず溢れた雨水が、建物とその隣の塀をつたって1階の店舗の壁を濡らす雨漏りを直しました。シングルという屋根材も傷んでいたのも金属屋根で覆い、樋を容量の大きいものにかき直したかったのですが、立地上むつかしかったので、家と隣の塀の隙間を鋼板で蓋をするようにして対処させていただきました。雨漏りは、店のオープンまでに間に合い止まりよかったです。



古い町屋の入りくんだ建て方なので板金職人さんもやりづらい中、うまくおさめてくれました。表通りは京都っぽい綺麗なファザードのお店が軒をつらねて建物の中に入るとわかりづらいのですが、屋根から見たら坪庭の塀や蔵などが、くっつく様にあるので、よく言えば立地条件を無駄なく利用しているけど、後の修繕や補修の事

を考えるとやりづらいです。材料も家の中を通して搬入したので、ある程度の長さに切断して屋根の上でつなげることになったり、はしごが掛けられないので不安定な体勢で作業したりしなければならぬので屋根の大きさは小さかったですけどハードな現場でした。



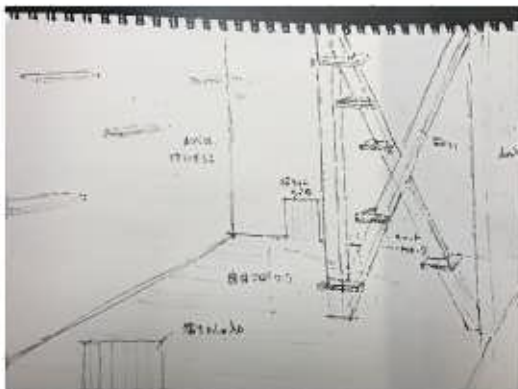
この間、事務機器やパソコンの事でいつもお世話になっている方が事務所の空いたスペースを活用してステンドグラス教室をするというので参加してみました。元々、教会などでと買うステンドグラスのはざいを材料にして、小さい写真立てをはんだ付けで組み立ててかんせいです。あらかじめガラス



を完成品のパーツに切ってくれているのでみんな同じ作品になるのがちょっと物足りなかったですけど、あまりすることがない作業なので結構、集中してたのしかったです。完成品は少し自分には、かわいらしすぎるので、どうしようか迷ってます。(^^)

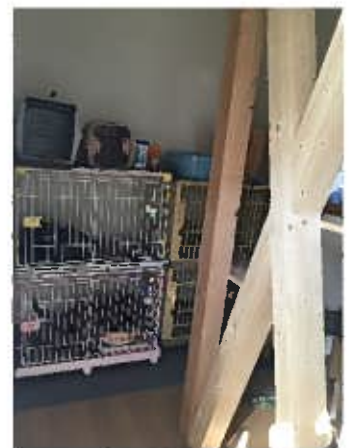


猫ちゃんの部屋



自分が席を置かせてもらっている勉強会で御一緒させてもらっているアトム電器春木店の柿谷君に以前から頼まれていた、猫ちゃんの部屋つくらせてもらいました。当初、増築の予定だったのですが、少し大事になりそうなので、2階の2室の間に1室増築することになりました。柿谷君と親しい間柄のお客さんで、仕事もやりやすく自分の思っていた感じにしあがりました。ただ、猫ちゃんは、部屋の中ではなしがいにせず、檻かごの中に入れて飼うというので、3つの檻

を1部屋に入れるのに、色々、壁の位置をずらしたり壁厚をうすくしたり、みんなで知恵を出しながら作らせていただきました。放し飼いには、しないのですが、一様、予定していたキャットウォークをつけさせてもらおうと、奥さんが喜んでくれました。檻かごもきっちり納まってよかったです。そのようにお客さんが喜んでくれると、この仕事の一番のやりがいを感じます。



貴船神社

先日、友人と京都の貴船神社におまりをさせていただきました。京都は遠いイメージがあったのですが、電車の乗り換えもあまりなく意外と近く感じました。

出町柳の駅は、まだ街の賑やかな雰囲気がありますが、貴船口の駅に着くと、急に空気が澄んでいておいしく感じます。駅から貴船神社まで山道をぼちぼち景色を見ながらのぼり神社の参道付近にいくとたくさんの観光客やハイキングの方で列ができていてにぎやかでした。特に外国の方が多く日本の方より多く感じました。



参道添いに流れる川には、納涼床の川床が連なっていて京都感が出ていました。せっかくなので財布の中身と相談しながら川床で鮎料理と山菜そばをよばれました。待ち時間が長かったですけどとてもおいしかったです。量も京都っぽく少ないのかなぁと思っていたら結構な量でお腹いっぱいになりました。

貴船神社の境内に入るとたくさんの短冊がかざっており、色々な色の紙に願い事が書いていてとても綺麗でした。大阪は7月7日が七夕ですが1か月遅れてあるみたいです。また、水の神様が祭られていて水にちなんでおみくじが変わっていて、山の湧き水に紙を浮かべると文字が浮き上がってくるというおみくじで、ひいて浮かべるともじのとこだけ金魚すくいのかみのようにすけて文字が浮かび上がりなかなか工夫してておもしろいです。



帰りは、鞍馬山の山道を抜けて駅までかえたのですが、牛若丸が修業の場所として使った山だけに、汗だくになったので鞍馬温泉につかって帰りました。

日帰りだと少ししんどいですが、1泊2日くらいだといい小旅行になるとおもいます。

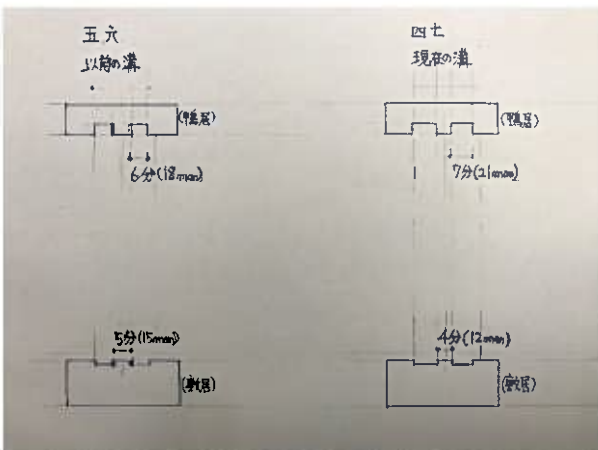
匠史の 道具箱



底取鉋、敷居や鴨居の溝をついたり 底を仕上げたりするのに使います。幅は大小、色々なものがあり用途により使い分けます。建築では、5分（15ミリ）か6分（18ミリ）をメインに使います。あと屋根の破風板のラインの模様などにもつかわれますが、寺や神社などでしかあまりつかわれません。5分や6分は敷居や鴨居、建具の肩を整えるのにそれくらいが使いやすいからです。今では木造の家屋で襖や障子をつけることは、だいぶ少なくなりましたが、店

舗なんかでは、意匠的に好まれて使うことがあります。

建具は、新調するとかなり高価になることもあるので、古い建具を削り合わせてつかわれたいもします。関西の古い建具は、溝のサイズが6分に作られていて、今の規格の7分の幅に合うように幅やサイズを建具職人さんに加工してもらいます。大きく違うと工場での加工となりますが、少しの違いなら、現場で削り合わせてもらいます。その時、この道具がやくだちます。使い方は、刃先がノミのような形をしているだけで、鉋のよ



うに刃の出を調整してけずります。古い建具はいい杉材や桧を使用しているの、削った時いい香りがします。あと長年、建具として使用されていたので、建付けも合性もいいです。旧家の間取りは関西では、大体、同じなので他の家に付けても違和感なく使えるので今でいうエコで合理的におもえます。